

「令和2年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 3 年 3 月 25 日

事業名称		国際交流事業費 [通訳交流員派遣事業]									
予算科目	款 2	総務費	項 1	総務管理費	目 12	地域振興費	事業番号	3			
事業の種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等										
担当部署・課長名	地域振興 課 市民協働 係					課長名	石川 正憲				
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。						施策番号	5 - 4				
【施策名】 地域を越えたパートナーシップの確立						総合計画書 (ページ)	113				
この仕事の目的	① 誰（何）を対象にしていますか。				① ①の対象数や量を、あらわすもの（対象指標）						
	市の区域内で生活する外国語を母国語とする住民				→ 外国籍住民（各年1月1日現在）						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]				② ②の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標）						
	言語を理由にした行政サービスに関する情報の不均衡を解消する。				→ 行政サービスの情報取得・サービス提供を受けた外国人住民						
この仕事の目的	③ そのために何をしましたか。				③ ③をどのくらい行いましたか（活動指標）						
	日本語及び外国語の堪能な市民等を外国語通訳交流員として登録し、市が実施する事業等において各課より外国語通訳を必要との要請があるときに派遣する。				→ 令和2年度の派遣実績は無い。						
指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度	成果目標				
				平成30年度実績	平成31年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標	令和4年度目標			
	対象指標	①の数値	人	1,130	1,185	1,201					
	成果指標	②の数値	人	不明	不明	不明					
	目 標	②の目標値	人				8	8			
目標値設定の考え方											
行政サービスにて通訳を利用する、予算措置された件数											
3 経費	活動指標	③の数値	件	1	2	0					
	事業費（実績）		円	11,500	12,500	10,500	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費（再任用職員以外）年間単価は、8,380,000円 時間単価は、4,300円で計算してください。 【算出根拠】平成31年度決算数値。 （退職手当組合負担金、共済費も含む。）				
	財源	一般財源	円	11,500	12,500	10,500					
		特定財源	円	0	0	0					
		〔うち受益者負担〕	円	0	0	0					
	人件費（目安）	所要人数(再任用以外)	人	0.1	0.1	0.1					
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0					
職員人件費(再任用以外)		円	824,400	831,000	838,000						
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0						
事業費十人件費		円	835,900	843,500	848,500						
4 環境変化等	(1) 開始年度 平成8年度										
	(2) 環境の変化 ・外国籍住民の出身国割合の変化や多国籍化。 ・生活に係る諸手続等、複雑な依頼が増加している。										

事業名称		国際交流事業費〔通訳交流員派遣事業〕			
担当部署・課長名		地域振興	課	市民協働	係 課長名 石川 正憲

5 市民等の意見	この仕事に関して、令和2年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について				
	・通訳交流員より、活躍の場が無いことの不満があった。 ・市民から外部施設への同行派遣の希望があった。市業務で所管しない内容のため、同行職員の確保ができず通訳交流員の安全確保が不十分であることを理由に派遣を断った。 ・市民から制度説明の通訳希望があった。専門性が高く正確な通訳が困難であることを理由に派遣を断った。				
6 市民協働	(1) この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）				
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない		取組手法：③ 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）		
	(2) 令和3年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点				
	地域振興課は通訳・翻訳が必要な部署へ紹介することにとどまり現場に同席しないため、通訳交流員・市民の様子や意見が直接に把握できない。				
7 課題	(1) 令和2年度に課題とした内容（「平成31年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）				
	通訳交流員派遣依頼数は前年度並みだが、各部署からの問合せは増加した。緊急性のある案件にも対応できるような仕組みがあれば、依頼が増える可能性がある。				
	(2) (1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、令和2年度に実施したこと。				
	通訳交流員の語学レベルを把握することで内容による派遣の適否を判断し、登録者が均等に活躍機会を得られることを検討とした。				
	(3) (2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）				
・通訳交流員との日程調整等が必要なため、突発的な依頼には対応できない。 ・外部施設への同行派遣の依頼は、同行職員の確保や通訳交流員の安全確保等の課題があるため断っている。					
8	施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。） 施策名： 地域を越えたパートナーシップの確立 ☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☐ 類似の事業が他にあり改善の余地が				
9 今後の方向性	(1) 仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など）				
	☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止 【取組内容】 ニーズの多様化に対応するため他市における対応、あるいは代替機関の有無等を情報収集する。				
	(2) 上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等				
ニーズ対応を優先するあまり、通訳交流員の安全確保が疎かにならないよう十分な配慮が必要である。					